

美術館を訪れる

世田谷美術館

銅版画家 駒井哲郎—福原コレクション 2012年4月28日～7月1日

東京都世田谷区砧公園 1-2 TEL 03-5777-8600

元都立ゴルフ場だったという世田谷区砧公園の恵まれた環境の一角にある。建築家内井昭蔵の代表作であり、毎日芸術賞、日本芸術院賞等の受賞作品である。1986年の開館ですでに25年を経過し、改修のため、しばらく閉館していたが、3/31より再開した。主に設備関係の改修とのことである。

企画展の銅版画家の駒井哲郎は目に見える「かたち」を通して、目に見えない「こころ」のうちを表現した画家として、日常的な姿の中に情動的な光景を銅版画に映し出したとされる。

企画展とは別に期待したのは向井良吉のアルキャストレリーフ「花と女性」(w = 14.5 m, h = 3.3 m)の公開である。これは旧大阪ホテルプラザのメインロビーの壁面を飾っていたが、廃業に伴い、その行方を心配していた。ホテル廃業後、ロビーを利用していた家具メーカーが一旦引き取り、作家と縁の深い当美術館への寄贈に至ったとのことである。向井良吉氏は京都生まれの戦後の日本の抽象彫刻界を代表する作家。実兄の向井潤吉氏は民家を描いた洋画家として有名。弦巻の旧宅は世田谷美術館分館として向井潤吉アトリエ館となっている。

この作品は建築とパブリックアートのコラボレーションとした動きがあった時代のもので、当時、都庁旧庁舎のロビー大壁面を飾っていた岡本太郎の陶板画が著名であった。しかし、惜しくも庁舎解体と同時に廃棄されてしまったという。建物と美術作品のあり方と寿命の違いがコラボレーションの問題点として改めて考えることになった。(伊藤誠三)

